

【第2章 第4節】

和泉市が持つ優位性

① バランスの良い人口構成

「トリヴェール和泉」を中心とした宅地開発に伴い、着実に人口が増加してきており、特に子育て世代の流入が顕著であったことから、全国の人口構成と比較すると、人口構成のバランスが良いまちである

② 利便性・自然環境・歴史文化等、バランスの良い都市環境

鉄道や高速道路を利用して京阪神各地と結ばれるロケーションに恵まれた場所に位置する一方、南部地域には豊かな自然、市内には数々の史跡を有する、様々な資源がバランスよく存在するまちである

③ 人口の増加と利便性の高さがもたらす産業の集積

大阪都心や関西国際空港へのアクセスの良さを背景として、テクノステージ和泉には各種企業が集積するなど、「ものづくり」を生み出す環境が整っているほか、平成26年には大型商業施設が立地し、新たなまちの魅力が加わるなど、交流人口が増加しているまちである

【第2章 第1節】

とりまく時代潮流

- ◆ 人口減少社会の到来と少子高齢化の進行
- ◆ 価値観やライフスタイルの多様化
- ◆ 安全・安心への意識の高まり
- ◆ 地域経済と雇用状況の変化
- ◆ 環境意識の高まり
- ◆ 情報化社会の革新的な進展による変化
- ◆ 地方分権の進展と地方創生に向けた動き

【第3章 第1節】

まちづくりの基本的な考え方

- (1) 定住志向の向上
- (2) 交流人口の拡大

【第4章 第1節】

めざす「将来都市像」

＜将来都市像＞ 未来に躍進！活力と賑わいあふれる スマイル都市

＜めざす「まちづくり」＞

本市は、恵まれた自然、歴史、利便性等の魅力を融合させながら、市民の多様化するニーズに適切に対応しつつ、全国水準と比べて人口バランスが良いというアドバンテージを生かし、人口減少社会においても、将来にわたり持続的な発展に向けた「躍進のまちづくり」に取り組みます。

そして、市民は、安全・安心を実感しつつ、新たな「まちの魅力」が創出され、活力と賑わいを楽しむことができる和泉市に「ずっと住みたい」と思う、みんなの「笑顔」があふれる『スマイル(住まう・居る)都市』をめざします。

◆和泉市に“住まう”

子どもたちがやがて成人し、家庭を持ち、親になったとき、誇りと愛着を持って住み続けるまち、そして、市外の人から住んでみたいと思われるまちをめざします。

◆和泉市に“居る”

市民が市内で余暇を過ごす機会が増え、市外からも人々が活発に行き交い、交流人口が拡大することで、活力と賑わいがあふれるまちをめざします。

◆“スマイル”都市

安心して子どもを生み育てることができ、地域や世代を超えた絆で結ばれる支えあいの中で、子どもから高齢者まで誰もがいきいきと笑顔で暮らせる、やさしさに包まれたまちへ

【第3章 第2節】

(まちづくりの視点)

「人」をつなぐ

様々な地域の、様々な世代の人が融合・交流することにより、地域における課題解決力と安心力が高まり、「安心」をより身近に感じることができるまちをめざします。

「資源」をつなぐ

市内の歴史、自然や産業等の固有資源を有効につなぎ、複合的に魅力を創出することにより、市民がまちの魅力に触れ、活発に行き交う仕組みをつくり、まちのブランド力の向上と地域・産業の活性化めざします。

「世代」をつなぐ

若い世代が安心して出産・子育てできる環境の整備と特色ある教育環境の構築により、子どもたちがいつまでも住みたいと思うまちをめざします。本市の「強み」を次世代に引き継ぐため、将来へ負担を転嫁させない都市経営の仕組みづくりに積極的に取り組みます。

【第5章】

＜政策の取り組み方＞

【定住の促進】

【にぎわいの促進】

【安全・安心の促進】

【支えあい・協働の促進】

【都市経営の促進】

まちづくりの目標

- ① 子どもたちの笑顔があふれ、健康で文化的な、人にやさしいまち
- ② まちの個性を伸ばし、新たな魅力と賑わいが創出されるまち
- ③ 安らぎを感じながら生活を送ることができる、安心を実感できるまち
- ④ 世代・地域を越えて、様々な交流が生まれるまち
- ⑤ 豊かなまちの資源を次世代に引き継ぐことができる仕組みづくり